

科 目 名
日本の文学Ⅱ Japanese Literature Ⅱ

1年 後期 2単位 選択
坂 口 頼 孝

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2), 2-(1)(4)(5), 3-(1)(5)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
	g	建築構造コース		

【概 要】

歌人として、また多くの古典を書きし今日に伝えた功績で知られる藤原定家。その定家の書いた短い歌論書（短歌の作り方を述べたもの）がある。そこにお手本として103首（使用教科書では102首）の短歌が載っている。その中から春・夏・秋・冬・哀傷を歌い、内容的に魅力があり、語法的・修辭的にも重要と思われるものを順次取り上げる。

日本の文学Ⅰでは変体仮名が読めるようになることに主眼を置くが、Ⅱでは読んだ後の処理である仮名遣いの異同の指摘・漢字仮名混じり表記・品詞分解・口語訳、さらには感想あるいは鑑賞文作成に主眼を置く。

本授業は学士課程共通の学習効果の「1. 知識・理解」の「(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を主として、「2. 汎用的技能」の「(1) コミュニケーション・スキル」「(4) 論理的思考力」「(5) 問題解決力」と「3. 態度・志向性」の「(1) 自己管理能力」「(5) 生涯学習力」にも対応する。

本授業は建築学科教育カリキュラムの「A 1.人文及び社会科学の教養」に対応し、「(g) 自主的、継続的に学習できる能力」を養うものとなる。

【到達度目標】

学習効果の1-(2)に関しては、何も見ないで変体仮名が読めるようになること、進んで、仮名遣いの異同の指摘・漢字かな混じり表記・品詞分解・口語訳・感想あるいは鑑賞文の作成が自分で行えるようになること。学習効果の他に関しては、和歌を辞書などを使って努めて自分で読み解くことにより、やっただけのものが自ずから身に付いて来る。

建築学科教育カリキュラムのA 1に関しては人文科学である和歌を原典で読み解き鑑賞する基本的な力を付けること。同gに関しては、和歌を辞書などを使って努めて自分で読み解くことにより、やっただけのものが自ずから身に付いて来る。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 導入・1 首目 (1)	授業の目的・やり方を確認する。新受講生（日本の文学Ⅰ未履修）がいた場合は古典の読み方や平仮名・片仮名の成り立ち・字源について触れる。その後1 首目（12ページ）の字源を推定させる。「かな字典」は使わず、漢字で書いてある所も前後の文脈から類推させる（新受講生を除く）。
② 1 首目 (2)	1 首目（8 ページ）の字源を確認し、仮名遣いの異同の指摘・漢字仮名混じり表記・品詞分解・口語訳・感想あるいは鑑賞文を完成させる。
③ 2 首目	2 首目（12 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の15ページ・空欄あり）を宿題として課す。
④ 3 首目	3 首目（15 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の16ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑤ 4 首目	4 首目（16 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の17ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑥ 5 首目	5 首目（18 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の18ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑦ 6 首目	6 首目（23 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の19ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑧ 練習 (1)	プリント（過去問）を本番と同じ形式でやらせる。机間巡視し、出来の良くない学生をリストアップし、補習授業（学生支援センター）に出よう促す。最後に過去問の解説をする。※プリント（教科書1の20ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑨ 7 首目	7 首目（24 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の21ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑩ 8 首目	8 首目（27 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の22ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑪ 9 首目	9 首目（29 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の23ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑫ 10 首目	10 首目（31 ページ）の作業（同前）。※プリント（教科書1の24ページ・空欄あり）を宿題として課す。
⑬ 練習 (2)	プリント（教科書1の25～27ページ・空欄あり）をやらせる。出来た者から答え合わせ。終わらない場合は宿題。
⑭ 練習 (3)	プリント（教科書1の28～30ページ・空欄あり）をやらせる。出来た者から答え合わせ。終わらない場合は宿題。
⑮ 練習 (4)	プリント（教科書1の31・32ページ・空欄あり）をやらせる。出来た者から答え合わせ。それが済んだ者にはプリント（過去問）をやらせる。机間巡視し、出来の良くない学生をリストアップし、補習授業（学生支援センター）に出よう促す。最後に過去問の解説をする。

【授業方法】

※前回宿題を出していた場合はまず提出させ、提出の有無を記録する。その後授業中に交代で答え合わせをさせ、再提出させる。

毎回教員が1 首を指示し、受講生は

- 1) それ（変体仮名）を読む（元の漢字に直す）。
- 2) 全て平仮名にし、歴史的仮名遣いと異なる部分に傍線を引き、正しい仮名を横に書く。
- 3) 漢字仮名交じりに直す。
- 4) 品詞分解をすると共に歌の修辭を指摘する。
- 5) 口語訳を考える。

- 6) 感想文または鑑賞文を書く。
の作業を行う。この間教員が適宜アドバイスを与える。

【学習到達度の評価】

- 1) 各人の宿題の提出状況・出来具合をチェックする。
- 2) 中間と最後に過去問をやらせ、その段階での合格可能性を自覚させ、教師側もそれを個別指導に生かす。
- 3) 筆記試験の答案の出来を見に来た学生に対し、個別に講評を行う。

【評価方法】

- 1) プリント宿題20点満点 (③～⑫各2点)、定期試験80点満点 (筆記)。辞書忘れや遅刻は総点から1点ずつ減点。60点に満たなければ再試験 (1回のみ・60点以上の場合に60点として合格) を実施する。定期試験・再試験は古語辞典 (電子辞書) と文法書のみ持込可。時間は60分。
- 2) 最終授業の終わり頃に学生自身による自己評価を実施する。また授業 (教師) に対する評価もしてもらう。

【関連科目】

1 年前期：日本の文学 I

【教科書・教材】

1. 百人一首 (堯孝筆) 笠間書院 (1,000円) ……必要
2. 字典かな 笠間書院 (380円) ……必要

【履修上の注意】

1. 日本の文学 I を履修済みの者が望ましい (合否は問わない)。
2. 古語辞典 (電子辞書の場合、活用表が付いていないものは別に文法書が必要) とノートと筆記用具 (赤ペンを含む) を必ず持って来ること。ノートは過去の分も持って来ること。

【オフィスアワー】

金曜 4 限。その他空き時間であればいつでも受け付ける。なお木曜 5 限は学生支援センターで対応。